

その1  
[July②]

Dr.ひろみの

# ハッピー子育てひろば



☆プロフィール☆  
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)  
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、香川大学医学部の鈴木です。子育てひろばの5号で安定した土台がある子どもは「何かに強い関心を持ち、行動する『積極性』が育つため、ゲームだけに関心を集中させるのを防ぐ。」というお話をしました。今回は、その「積極性」を育てるために、大人が何をすべきかを一緒に考えましょう。人は一生に何度か「心に杭を打たれるような衝撃をもって自分を惹きつけること」に出会うと思います。その時、その衝撃を大事にできるか、スルーしてしまうのかは、子ども時代の大人からの言葉かけによるかもしれないと思っています。

今回お届けするのは、  
**②積極的に学べる環境作り**です。

## 大切にしてほしい「子育て5原則」

積極的に学んでいる状態とは何でしょうか？それは「何かに無我夢中になっている状態」のことです。すごく好きなこと、時間を忘れて没頭してしまうことを見つけて大事にしてやるのが、**積極性**を伸ばすうえで何よりも大切です。自分が興味を持ったことに価値があると認められることは、将来「〇〇をやりたい。」「〇〇になりたい。」といった、夢を叶えようとする原動力になるからです。



- ① 安全・安心して過ごせる環境作り
- ② 積極的に学べる環境作り
- ③ 一貫した、わかりやすいしつけ
- ④ 適切な期待感をもつ
- ⑤ 親としての自分を大切にする

私たちができることは  
**2つあります。**

### その1

子どもが興味を持ったり、  
楽しんでやっていることに  
「そんなことをやる暇があるなら…。」  
「くだらない。」等々  
否定的なことを言わないことです。

### その2

好きなことをみつける手伝いをする  
ことです。子どもの関心ごとに関心を持つ  
ことです。  
「楽しそうにしてるね。」と声をかけ、「  
なんで興味を持ったの？」「おもしろいことを  
教えて？」など、聞いてみます。そして、黙  
って「にこにこ」見守り、「一緒に考えたり、  
楽しんだり。」  
子どもと一緒に好きなこと探しの旅を  
しましょう。

「子どもがゲームにしか興味がない。」という声をよく聞きます。ゲームだからと全否定するのではなく、夢中になっているゲームの内容に関心を示してみるのはいかがでしょうか。好きなゲームのことなら、会話も弾みますよね。ゲームの内容に関係した本を買ってあげるのもいいですし、現実に体験できることがあるなら一緒にしてみるのもいいでしょう。きっかけがゲームで、興味関心が広がることがあります。私の息子は、パワプロという野球ゲームしかしませんでした。弱小チームを甲子園に出場させるプロセスを楽しんでいたため、名監督の本を買おうと喜んで読み込んでいました。そのうち小遣いで本を買おうようになり、大学生になると野球のスポーツメーカーでバイトをし、誰よりも「熱く」働いているのだそうです。

